

第二回 江端川総合治水協議会議事要旨

日時：平成18年11月22日（水） 10：00～11：55

場所：福井県庁 正庁

1. 開会

2. 説明及び審議

1) 第一回協議会の指摘事項について（資料説明 10：00～10：20）

- ・ 特に意見無し

2) 総合治水対策（案）資料説明 10：20～10：45

（吉川委員）ポンプの改良が可能であればお願いしたい。吸い込み口を下げれば低い水位からポンプ排水が可能となるのではないかと。

（事務局）構造的に吸い込み口を下げることは可能であるが、ポンプ揚程が大きくなり新設と同程度のポンプ改修が必要であるので難しい。今後、ポンプを更新する際に検討したい。

（名津井委員）水門が開いている時は、ポンプより自然流下で排水した方が効果が高い。また、水門が開いているときにポンプ排水しても日野川の水が江端川に逆流するので効果は小さいと考えられる。

（吉川委員）ポンプ増強 $5 \text{ m}^3/\text{s}$ での江端川水位低下の効果を過大評価しているような感じがする。

（名津井委員）朝六川や高橋川などの江端川への流入河川からの流入量は考慮していない概略検討である。実際には水位低下量はもう少し小さくなるであろう。次回協議会までに精査し資料を提示する。

（吉川委員）ポンプ場から上流（徳光町、北山町）までの河床勾配はどうなっているのか。

（事務局）次回協議会で資料を提示する。

（吉川委員）水田貯留方式は良い案と思う。ただし、水田の水路は10年確率、江端川は5年確率を整備目標としており、整合が取れていないので農林部局と調整すべきだと考える。

（名津井委員）上流の対策は下流に影響を与えかねない。各地域で社会的な影響が少ない対策を原則に検討したいが、部分的には輪中堤や宅地嵩上げなどもあり得る。

（早瀬副委員長）農業基盤整備は10年確率であるが無湛水の計画ではない。1日程度の湛水は許容している。本計画は宅地無湛水为目标としているので少し異なる。

（吉川委員）農家の転作問題がからむので、湛水地域は転作から除くなどの対策が必要ではないかと。

（中田委員（黒川代理））関係機関と協議していきたい。

（早瀬委員）転作政策は地域の状況を考慮しない一律な指導である。地域の実情を踏まえた転作や土地利用対策が必要である。

（吉川委員）太田江川にポンプを設置し排水能力を強化し、下流部は嵩上げで対応できないか。

（事務局）検討する。

(坂川委員) 資料 P 1 1 の江端町内ポンプの能力は何トンか。また、ポンプを設置しても下荒井側から流入するので、下荒井橋につながる市道の嵩上げをして欲しい。

(事務局) 現在、左右岸にそれぞれ $0.2 \text{ m}^3/\text{s}$ のポンプを福井県が設置した。浸水軽減が目的で、計算では湛水深 20 cm 程度となる見込みである。江端川の河道改修でポンプの移設が必要なので、その際に各ポンプ能力を $0.6 \text{ m}^3/\text{s}$ 程度に増強し浸水解消を図る予定である。また、上流からの河川水の進入状況を確認したうえで道路嵩上げ等を検討する。

(坂川委員) 江端川河道改修では用地取得を先行してほしい。また、江端川ポンプ場は長時間運転時の信頼性を確保するために予備ポンプを置けないのか。

(事務局) 用地買収は上流に向かって推進したい。また、江端川ポンプ場は定期点検等を実施しており、維持管理で信頼性を高めていく。予備は置いていない。

(高島武彦委員) 江橋場川は水門を設置しても水位が上昇し溢れるので、ポンプ設置時期を中期から短期に出来ないか。

(事務局) 地元の要望を踏まえて短期で実施できるように努力する。

(金井委員) 内水排除ポンプの設置が一番低い場所を基準にして設置して欲しい。また、河道内の余裕高 80 cm は 75 cm には出来ないのか。

(事務局) 最低地盤高を踏まえてポンプ規模を検討している。また、余裕高 80 cm は洪水時のうねりなどから国の基準で決められている。部分的に変えることはできない。

(川端委員) 半田町の対策について検討の現状を教えてください。

(事務局) 5 年確率の降雨でも浸水しない対策を考えたい。河床高調査や浸水原因の究明を進めているところである。

(高島秀明委員) 徳光町の対策について、応急で河道浚渫、中期で太田江川の改修は実施可能なのか。

(事務局) 福井市では現在も河道浚渫を実施している。太田江川の改修は、河道改修か放水路新設かは今後検証して決めていきたい。

(名津井委員) 河道改修や放水路は下流への影響が避けられない。下流の江端川の流下能力も低いので地域完結型の対策を考えていく必要がある。

(吉川委員) 対策時期の中期と長期の目安は何年くらいか。

(名津井委員) 短期は 5 年程度を目安に考えている。中期は明確に回答出来ないが家屋浸水は早急に解消したい。

(木下委員) 江端町の J R を横断する道路（アンダー）で浸水し不通となる。避難に支障があるので解消していただきたい。

(事務局) 福井市のハザードマップでは危険箇所として避難路に指定していない。排水ポンプをつけて対処しているが排水には 24 時間かかる。浸水時に排水しても下流への影響等があるのでこれ以上のポンプ増強も出来ない。現状維持で理解いただきたい。

(三田村委員（加藤代理）) 地元で事業を実施する、用地を買収する立場としては地元の理解の重要性を非常に感じている。この会議で十分に理解していただけるようにしたい。

(坪田委員（吉岡代理）) 上流から下流まで一貫した考えで実施することが重要と考える。農林

サイドでは転作も促進させたいが、水田貯留とのバランスが重要と感じる。

(穴田委員) 水田貯留は、転作を促進したい農家の意欲を損なうことになるので、難しい問題である。

(福原委員長) 上下流バランス、農業との融合、妥協などを総合的に検討する必要がある。

(早瀬副委員長) 本流域は上下流問題、都市と農村の問題ではないか。上流の農地に水を貯める効果は治水にとっては高いと思われる。下流の都市は上流への思いやりをもつ必要がある。洪水時だけでなくふだんからの連携が重要である。地産地消の概念が導入できないか。

(福原委員長) それぞれの要望を積み上げればよい対策になるとは限らない。恩恵と被害の関係を整理して上下流バランスを検討する必要があるのではないか。流域全体で治水機能を果たせるための検討を進めていただきたい。

3. 事務局連絡

次回協議会は平成19年1月23日(火)10時からとする。場所は後日連絡する。

以上